

9 松倉 敬子 さん Keiko Matsukura

起

中南勢

株式会社 真夢農和（まむのわ）（松阪市）
代表取締役

事業所
住所：三重県松阪市久保町 1821-33
社員数：10名

業種
農家レストラン



Profile

- ・『深緑茶房』（松阪市）の茶葉生産者
- ・家業を子世代に譲り飲食店経営に挑戦
- ・専業農家7軒で共同出資し2013年開店
- ・新鮮野菜たっぷりのランチが評判

講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立 育ボス
- 人材育成 障がい者雇用 起業
- NPO設立 多文化共生
- 地域資源活用 防災
- その他

講演実績

「私の使命」

子育て終えて、憧れだった夢に挑戦！

平均年齢は64歳。専業農家の「お母ちゃん（Mom／ママ）」が丹精込めた手作りランチが大人気の自然派レストラン『真夢農和（まむのわ）』は、他県の農業経営者・農業政策関係者からも熱い注目を集めています。代表の松倉さんは、日本茶農家のお母ちゃん。2013年に61歳でレストランを創業したきっかけを「農業の主力を子世代に譲り、日々のやりがいを見つけたから」と振り返ります。松倉さんの周りには、お茶農家をはじめ、米／野菜／卵／果物など、同世代の農家仲間が多数。「隠居生活で、テレビの前がいつもの席。こんな生活をこの先ずっと送るの？！と想像したら悪寒がした。新しいやりがいを見つけたかった」と振り返ります。

仲間の新鮮野菜が味方。県外の産直品も

松倉さんは21歳で結婚して以来、農業一筋。「もちろん経営は初めて」。レストラン構想を農業仲間と話すと、「『実は私もカフェをやってみたかった』と、ひとりが手を挙げてくれました」。さらに出資を申し出る仲間も現れ、農家7軒の共同事業としてスタート。主力商品は、松倉家がつくる『深緑茶房』の緑茶と、近隣農家の採れたて農産品。営業中に野菜が足りなくなると、電話して即座に収穫野菜を持ち込んでもらうことも。さらにメンバーの家族が声かけをし、全国の農家仲間も協力してくれることになりました。北海道のアスパラ、青森のゴボウ、長野のトウモロコシなど、どれもスーパーではお目にかかれない大きさ・太さの品で、素材の良さが光ります。

私流リーダーシップ

メンバーが力合わせ“できること”を提供

共同出資した7軒の農家は、それぞれが“できること”をレストランに提供しています。例えば、料理の腕を活かし厨房に立つ人、卵・果物などの農産品を納入する人など。飲食店営業に必要な『食品衛生責任者』資格は、7人みんなで取得しました。松倉さんはリーダー役と、店周辺の土地造成・建物の修繕を担当。「農家はどこも昔から、山を開墾して、納屋を建て、棚を作り付け、全部自分で切り拓いてきました。だから農家は何でもできるんです。重機の扱いは慣れたもの」。皆で一つの事業を維持するために、作ったルールはたった一つ。「不満がある人は、大きな声で言う」。長い付き合いの中で育んだ、メンバー同士の“あうんの呼吸”で歩んでいます。

輝くプラチナ世代「私達は今もイケイケ！」

店は年々ランチ数を増やすほどの盛況ぶりですが、経営は「正直大変。難しい。借り入れてばかり」という松倉さん。創業メンバーのひとり、農業経営者の大西さんは資金面から店を支えます。「私にとって、店は大切な安らぎの場。なくなると困るでなア」。ほかにも店の繁忙期と見ると、どこからか手伝いに来る“ご近所さん”も。さまざまなシニア層が、それぞれに松倉さんらの様子を気にかけている様子。店がTVで紹介されると、その傾向は一層顕著になるそう。「三河安城から自転車に乗って、70歳の女性が激励に来て下さったことも！」。第二の人生もアクティブに。「私達イケイケやもんね！」と自信たっぷりに笑う姿が印象的でした。

（取材時：2018年8月）

こんな講演・相談に対応できます

- 六次産業の取組事例
- プラチナ・シニア世代の起業
- 農家女性の“生きがい”創出
- 自身の育児・農業の紹介

お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEBは
ここから

